

食事摂取基準（2020 年版）の策定の方向性について（案）

食事摂取基準（2020 年版）の策定に当たっては、原則として 2015 年版の策定方法を踏襲した上で、以下の点について検討してはどうか。

- 高齢社会の更なる進展（2025 年問題とその先の社会）への対応
 - ・ 更なる高齢化の進展を踏まえ、高齢者の低栄養予防及びフレイル予防のための目標量を設定
 - ・ 高齢者の個人差に対応できるように、年齢だけではなく、体重当たりの摂取基準等、新たな指標を設定
 - ・ 高齢者の年齢区分について、エビデンスがある栄養素については、政策的視点から、より細かな年齢区分による摂取基準を設定
 - ・ 各栄養素の記載内容について、現行版では 18 歳以上の全ての年齢区分をまとめて記載しているが、高齢者に係る事項を特掲
 - ・ 今後の社会を支える担い手となる若年層、特に小児について、一部未設定となっている摂取基準を設定
- EBPM の推進への対応
 - ・ 「根拠に基づく栄養政策の立案」を一層推進する観点から、特に目標量を設定している摂取基準については、系統的レビューに係る国際指針等も踏まえ、レビュー方法及び記載の標準化・透明化を図るとともに、エビデンスレベルを記載
- 健康・栄養に関する国際的取組への対応
 - ・ 栄養サミットの開催等に合わせ、策定内容を海外に積極的に発信（英語版の公表等）していくことも視野に入れて策定

なお、上記検討に当たっては、食事摂取基準の利用者（行政・医療・介護領域の管理栄養士等）の意見を聴取し、活用のしやすさに十分配慮する。